

平成30年（2018）5月 入域観光客数概況

5月の観光客数は、83万900人
対前年（H29）同月比 +9万300人、+12.2%
～5月の過去最高更新、各月の過去最高を55ヶ月連続更新～

入域状況

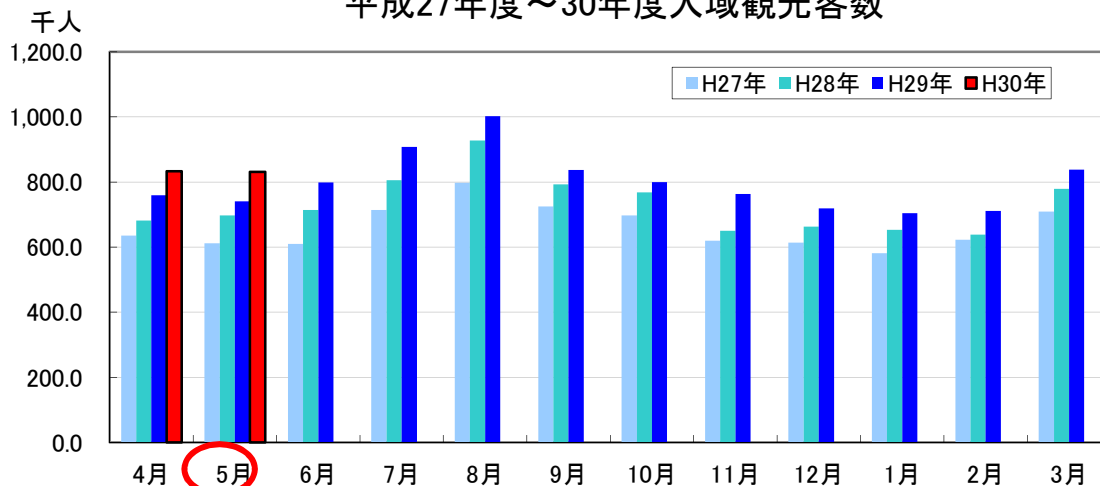
入域観光客数（平成29年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H30年度	H29年度	増減数	増減率	構成比
国内客	514,600 人	523,800 人	△ 9,200人	△ 1.8%	61.9%
外国客	316,300 人	216,800 人	+ 99,500人	+ 45.9%	38.1%
合計	830,900 人	740,600 人	+ 90,300人	+ 12.2%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成29年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H30年度	H29年度	増減数	増減率	構成比
国内客	514,600 人	523,800 人	△ 9,200人	△ 1.8%	66.1%
外国客	264,200 人	192,000 人	+ 72,200人	+ 37.6%	33.9%
合計	778,800 人	715,800 人	+ 63,000人	+ 8.8%	100.0%

平成27年度～30年度入域観光客数



国内客 入域状況

5月は、離島直行便の実績が良好であったものの、ゴールデンウィークの休日数の減少や麻しん（はしか）患者の発生に伴う影響等により前年を下回った。

6月は、ANA福岡－宮古直行便の運航再開による航空路線の拡充があることや、各航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

5月は、麻しん（はしか）患者の発生に伴う影響が懸念されたものの、クルーズ船の寄港回数が前年同月比で増加したこと等から前年を上回った。

6月は、端午節連休による旅行需要の高まりに加え、引き続き前年同月に比べて航空路線の拡充があることや、大型クルーズ船の寄港が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H30年度	H29年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	225,200 人	230,900 人	△ 5,700人	△ 2.5%	43.8%
関西方面	124,600 人	121,200 人	+ 3,400人	+ 2.8%	24.2%
福岡方面	64,900 人	66,400 人	△ 1,500人	△ 2.3%	12.6%
名古屋	42,800 人	43,600 人	△ 800人	△ 1.8%	8.3%
その他	57,100 人	61,700 人	△ 4,600人	△ 7.5%	11.1%
合計	514,600 人	523,800 人	△ 9,200人	△ 1.8%	100.0%

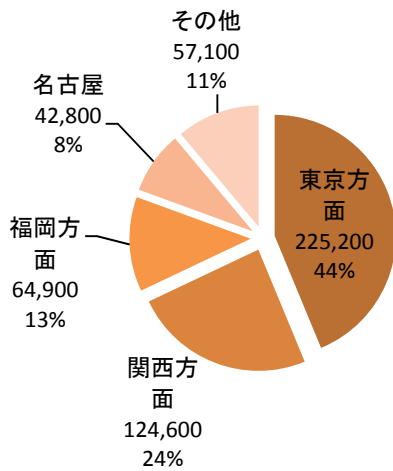
※国内海路客9,400人を含む(鹿児島2,400人、横浜2,700人、神戸4,200人、その他100人)

外国客 国籍別入域状況

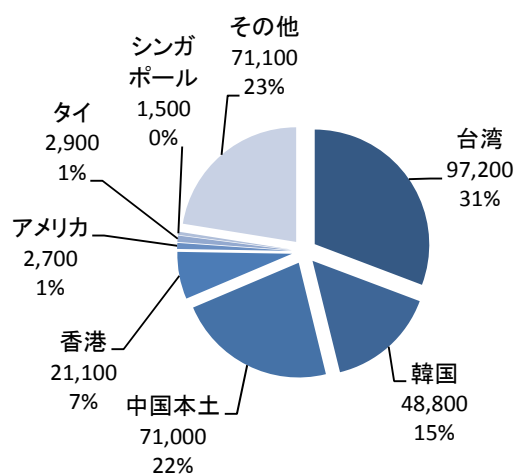
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H30年度	H30年度	H29年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	97,200 人	97,200 人	68,900 人	+ 28,300人	+41.1%	30.7%
韓国	48,800 人	48,800 人	41,600 人	+ 7,200人	+17.3%	15.4%
中国本土	71,000 人	71,000 人	45,900 人	+ 25,100人	+54.7%	22.4%
香港	21,100 人	21,100 人	24,000 人	△ 2,900人	△12.1%	6.7%
アメリカ	2,700 人	2,700 人	2,000 人	+ 700人	+35.0%	0.9%
タイ	2,900 人	2,900 人	2,100 人	+ 800人	+38.1%	0.9%
シンガポール	1,500 人	1,500 人	800 人	+ 700人	+87.5%	0.5%
その他	71,100 人	19,000 人	31,500 人	+ 39,600人	+125.7%	22.5%
合計	316,300 人	264,200 人	216,800 人	+ 99,500人	+45.9%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	59,700 人	59,700 人	+15.9%	38.6%	37,500 人	37,500 人	+115.5%	23.2%
韓国	45,900 人	45,900 人	+11.1%	29.7%	2,900 人	2,900 人	+866.7%	1.8%
中国本土	21,600 人	21,600 人	△3.1%	14.0%	49,400 人	49,400 人	+109.3%	30.6%
香港	16,700 人	16,700 人	△20.9%	10.8%	4,400 人	4,400 人	+51.7%	2.7%
アメリカ	1,800 人	1,800 人	+0.0%	1.2%	900 人	900 人	+350.0%	0.6%
タイ	2,800 人	2,800 人	+40.0%	1.8%	100 人	100 人	+0.0%	0.1%
シンガポール	1,300 人	1,300 人	+85.7%	0.8%	200 人	200 人	+100.0%	0.1%
その他	5,000 人	5,000 人	+8.7%	3.2%	66,100 人	14,000 人	+145.7%	40.9%
合計	154,800 人	154,800 人	+6.5%	100.0%	161,500 人	109,400 人	+125.9%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月は、航空会社の先行割引航空券等の販売は安定していたものの、ゴールデンウィークの休日減による影響等から、前年を下回った。

6月は、旅行会社の夏季シーズンの商品販売強化の取組があることや、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が安定していること等から、堅調に推移する見込み。

大阪

5月は、麻しん(はしか)患者の発生に伴う影響が懸念されたものの、航空会社の先行割引航空券などの販売が良好であったこと等から、前年を上回った。

6月は、一般団体旅行や教育旅行の受注が安定していることや航空会社の先行割引航空券の販売が安定していること等から、堅調に推移する見込み。

福岡

5月は、離島直行便プロモーションによる旅行需要の喚起があったものの、旅行商品の販売が苦戦したこと等から、前年を下回った。

6月は、航空会社の先行割引航空券の販売が安定していることや、「福岡ー宮古」直行便の運航が再開されていること等から、堅調に推移する見込み。

名古屋

5月は、離島商品の販売実績が良好であったものの、麻しん(はしか)患者の発生に伴う影響等により個人旅行商品の受注が鈍化したこと等から前年を下回った。

6月は、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が良好であることや、旅行会社の追加対策商品の造成による旅行需要の喚起が期待されること等から、堅調に推移する見込み。

台湾

5月は、麻しん(はしか)患者の発生に伴う影響が懸念されたものの、前年同月と比べ航空路線が拡充したことや、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から前年を上回った。

6月は、大型クルーズ船の寄港が予定されていることや、前年同月より航空路線の拡充があること等から、好調に推移する見込み。

韓国

5月は、麻しん(はしか)患者の発生に伴う影響が懸念されたものの、那覇へのチャーター便の運航やクルーズ船の寄港回数が増加したこと等により、前年を上回った。

6月は、近距離旅行の需要の高まりに加え、前年同月に比べて航空路線の拡充があること等から、空路を中心に好調に推移する見込み。

中国本土

5月は、麻しん(はしか)患者の発生に伴う影響が懸念されたものの、個人旅行が良好なことや、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。

6月は、端午節連休による旅行需要の高まりや、クルーズ船の寄港回数が増加する予定であること等から、好調に推移する見込み。

香港

5月は、大型クルーズ船の寄港があったものの、麻しん(はしか)患者の発生に伴う影響等から前年を下回った。

6月は、前年同月に比べて航空路線の拡充があるほか、大型クルーズ船の寄港が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。